

■ 農作物の生育状況と今後の対策等（7月）

令和6年7月17日
三八地域県民局地域農林水産部
農業普及振興室

I 土地利用型作物

1 水稲

(1) 生育の状況

① まっしぐら

管内8地点における生育観測ほの生育は、草丈・葉数は平年を上回った。茎数は地点によるばらつきが見られ、全体の平均は平年を下回った。生育観測ほの幼穂形成期は、八戸市市川で平年より9日早い7月4日、五戸町根前で平年より7日早い7月4日であった。

② はれわたり

管内5地点における生育観測ほの生育は、草丈は前年を下回り、葉数は前年を上回った。茎数は地点によるばらつきがみられたが、前年より少ない傾向がみられる。

表1 7月1日現在 生育観測ほ生育状況（管内平均）

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本)	m ² 茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	幼穂形成期 (月日)
まっしぐら (8地点平均)	本年	57.3	21.7	380	9.5	7月5日
	平年	50.7	21.1	445	8.9	7月11日
はれわたり (5地点平均)	本年	58.0	23.2	458	9.5	7月4日
	前年	58.4	26.3	492	8.8	7月5日

※幼穂形成期の（ ）は予測月日

※はれわたりは調査年数が少ないため平年値なし。

(2) 今後の対策・指導等

- ①最低気温が17℃以下になると予想される場合には、深水管理を徹底する。
- ②稲こうじ病、いもち病等の適期防除。カメムシ対策として出穂7日前までに水田周囲の草刈りを終える。
- ③農作業履歴を記帳する。

2 大豆

(1) 生育の状況

7月10日の生育調査は、八戸市市川では草丈は平年より低く、葉数は平年より多かった。

五戸町倉石中市では、草丈は平年より高く、葉数は平年より多かった。

タデ類やツユクサ等の雑草が散見された。

表2 大豆生育調査結果

調査地点	年次	播種日 (月日)	7月10日調査	
			草丈 (cm)	葉数 (葉)
八戸市	本年	5月31日	31.4	5.7
市川	平年*	5月29日	32.9	4.3
五戸町	本年	6月6日	39.3	5.9
倉石中市	平年*	6月9日	30.8	3.7

※平年値は平成25年～令和5年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

①湿害により生育不良となることから、明きょ等の排水対策を行う。

②適期に雑草及び病虫害防除を行う。

③中耕・培土を適期に行う。

II 野菜

1 ながいも

(1) 生育の状況（県生育観測ほ）

萌芽揃いは平年より13日遅い6月24日、つるはネットの8割程度まで到達しているものの、7月10日現在でネット頂上まで到達していない（平年のネット頂到達日は7月6日）。

地下部の生育は、いも長が平年比62%、いも重が平年比34%、いも径が平年比83%と平年を下回っている。

病害の発生は見られなかった。害虫は、ナガイモコガの食害やカメムシ類による葉の吸汁害が散見される。

表3 ながいも生育観測ほの生育調査結果（7月10日）

年 度	定 植 期					つるの ネット頂 到達日	7月10日現在 (本年調査日:7月10日)		
	植付期 (月日)	種いも の種類	萌 芽				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
			始め (月日)	期 (月日)	揃い (月日)				
本 年 (平年比)	5/20 遅15日	ガンク欠	6/20 遅15日	6/22 遅14日	6/24 遅13日		11.2 62%	3.0 34%	6.9 83%
平 年	5/5	ガンク欠	6/5	6/8	6/11	7/6	17.9	8.7	8.3
前 年	5/2	ガンク欠	6/10	6/12	6/14	7/7	16.7	7.3	7.6

※栽植様式：畝幅 120cm、株間 22cm (3,787株/10a)

※種子の系統：庄司、使用種子の種類・重さ：2年子・120～150g

※平年値は平成26年～令和5年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、降雨が多い状況が続いているので、排水対策を徹底する。
- ②1回目の追肥時期を迎えているので、遅れないよう追肥を実施する。
- ③アブラムシ類、ナガイモコガ、葉渋病、炭疽病の発生に注意し、予防防除に努める。

2 ねぎ

(1) 生育の状況（県生育観測ほ）

草丈は平年比 82%で平年を下回っているものの、茎径は平年比 118%と平年を上回っている。収穫時期はほぼ平年並と見込まれる（平年7月15日）。

病害は、さび病、葉枯病が散見される。虫害は、アザミウマ類、ハモグリバエ類の食害が散見される。

表4 ねぎ生育観測ほの生育調査結果（7月10日）

年 度	定 植 期			7月10日現在 (本年調査日:7月10日)	
	品種名	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)
本 年 (平年比)	夏扇パワー	12/25 遅5日	4/4 遅11日	83.0 82%	25.5 118%
平 年	夏扇パワー	12/20	3/24	101.6	21.7
前 年	夏扇パワー	11/26	3/19	96.7	21.7

※平年値は平成26年～令和5年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、降雨が多い状況が続いているので、排水対策を徹底する。
- ②収穫予定日を考慮し最終培土を実施する。また、培土は、高温の時間帯を避け、早朝に実施する。
- ③収穫前日数を確認し、さび病、べと病、ネギハモグリバエ等の病害虫防除を徹底する。

3 にんにく

(1) 生育の状況（県生育観測ほ）

収穫期は平年より4日早い6月18日であった。地下部の生育は、球径が67.8mm（平年比105%）、生球重が114.8g（平年比115%）で平年をやや上回った。

表5 県生育観測ほの収穫期調査結果（調査地点：田子町日ノ沢）

年次	収穫時期 (月日)	茎葉重 (g)	球径 (mm)	生球重 (g)
本年 (平年比)	6月18日 (4日早)	73.6 (82%)	67.8 (105%)	114.8 (115%)
平年	6月22日	90.0	64.7	99.8
前年	6月20日	81.6	61.5	94.2

※種子の系統：「白玉王」、種子りん片重量：10～12g

※栽植様式：うね幅160cm、株間15cm（16,667株/10a）、緑マルチ

※平年値は平成26年～令和5年の平均値（但し、黒マルチを使用した令和2年を除く）

(2) 今後の対策・指導等

- ①乾燥時の温度、送風量を適切に管理し、煮え、ムレ等による品質低下に注意する。また、過乾燥にならないように注意する。
- ②乾燥が終了した種子は、出荷品と離して、風通しの良い涼しい場所で保管する。

4 トマト

(1) 生育の状況

生育観測ほの生育は、5段花房の開花が6月27日で、平年より7日早く、現在6～7段目が開花中である。

収穫始めは、平年より8日早い7月2日から始まった。

6月第2半旬以降の高温により、3段花房で尻腐れ果、4～5段花房で落花が見られる。

病害は灰色かび病の発生が見られ、虫害の発生は見られていない。

一般ほ場の生育は、概ね順調と見られる。病害は、灰色かび病の発生が見られ、虫害はアザミウマ類による果実被害が見られるほか、一部のほ場でトマトキバガの発生がみられている。

表6 生育観測ほの生育状況（7月10日）

年度	定植時			着果状況					
	品種名	定植期 (月日)	育苗・ 活着 状況	1段花房		3段花房		5段花房	
				開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
本年 (平年比)	りんか409 (自根)	5/5 8日早	良好	5/21 6日早	4.6 119%	6/12 5日早	3.1 92%	6/27 7日早	(未定) —%
平年	りんか409	5/13		5/27	3.9	6/17	3.4	7/4	2.6
前年	りんか409	5/10	良好	5/17	4.3	6/5	4.0	7/1	2.5

※栽植様式：畦幅 200cm、株間 40cm、条間 60cm、2条（1,960株/10a）、黒マルチ

※平年値は平成26年～令和5年の10か年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①着果数は、草勢に合わせて1花房あたり3～4果程度に調整し、生育・天候に応じたかん水・追肥を行って、草勢の低下を防ぐ。
- ②高温対策として、日中の暑い時間帯は遮光資材でハウスを覆い、好天が続く予報の場合には屋根部に塗布剤を処理する。
- ③病害虫の発生に留意し、初期防除に努める。

Ⅲ 農作業事故防止

1人で作業する時は、事前に家族等に所在を知らせておき、農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意する。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させる。

Ⅳ 農作業中の熱中症対策の更なる徹底

農作業中の熱中症による死亡事故の8割以上が7月から8月に集中しており、熱中症リスクの高い時期であることから、①こまめに水分をとる、②こまめに休憩をとる、③暑い時には無理をしないなど注意する。

Ⅴ 農薬適正指導

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農薬は、周辺作物に飛散しないよう適正に使用し、使用後は、栽培日誌、GAPチェックリストに忘れずに記帳し、出荷前の確認を徹底する。